

住吉区地域包括支援センター運営協議会 報告

第1回：R5年5月18日 第2回：R5年7月14日 第3回：R6年2月24日

認知症関連	見えてきた課題	取り組む方向性
	<ul style="list-style-type: none">・理解不足等により家族から支援同意が得られず介入までに時間を要することがある。・症状悪化に伴い金銭管理が困難になったり、近隣への迷惑行為が深刻になってからの相談により介入に時間がかかる。	<p>区役所・包括が一体となり啓発活動、家族などへの丁寧な継続支援を行う</p> <p>具体的な啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none">・地域や集団向け・介護家族等向け・広報誌等の活用・後見制度の活用や虐待防止などの権利擁護を含め、認知症への理解を促進する内容を検討。
複合課題	見えてきた課題	取り組む方向性
	<ul style="list-style-type: none">・他機関にまたがる支援の場合、それぞれの役割分担の明確化、支援経過の共有を図ることが重要であるが、速やかに各専門分野を越えた相互活動が可能になる状況にない。	<ul style="list-style-type: none">・警察等との協力・連携強化。・区役所内の相談機関（精神担当・生保担当等）とのより一層の連携構築。・基幹相談支援センター、障がい者支援事業所、訪問看護ステーション（特に精神科訪問看護ステーション）、区の精神担当等、障がい分野の支援者との連携を特に深めることで、高齢者の状態変化に応じたスムーズな連携を行いやすくする。
予防的支援構築	見えてきた課題	取り組む方向性
	<ul style="list-style-type: none">・権利擁護や認知症への理解を深め、支援機関が適切な時期に介入・支援することができるようにしていくことが必要である。・地域ケア会議：地域の方と一緒に本人を支えるために地域ケア会議を通して支援について考える必要がある。・高齢領域の支援者間だけでなく、世帯を取り巻く支援者とのつながり作り、方針を整理する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・地域の民生委員協議会や常駐支援員会議、見守りボランティア会議などの会議に参加し、ケースや地域課題について情報共有を図る。・地縁組織以外にも包括・ブランチを周知していけるよう、郵便局・薬局にもパンフレットを持参し、相談窓口の案内を行う。また、商店などよりきめ細かい対象に向けて、顔の見える関係を築きながら周知活動を行い、より相談しやすい体制を整えていく。
金銭管理	見えてきた課題	取り組む方向性
	<ul style="list-style-type: none">・早期からの成年後見人・あんしんサポート制度の周知強化成年後見人やあんしんサポートにつながるまで時間がかかる。また、つながった後も日々の金銭管理について課題が残る。	<ul style="list-style-type: none">・関係機関との連携を深め、タイムリーな対応に努める。・高齢者や世帯への金銭管理支援について、特に支援につながるまでの過程を整理、ノウハウとして蓄積する。